

60歳の
いまだから
わかる

40代に絶対にすべきこと①

40代に
絶対に
すべきこと！

60歳の
いまだから
わかる

どの年代でも、年月を経て振りかえって「こうすべきだった」「ああしたほうがよかった」と思うことがある。しかし自分の歳で何をすべきかは見えにくい。そこで、60歳の視点から振りかえって見て40代でやっておくべきことは何だったかを、吉本興業で辣腕をふるったのち独立し、フリープロデューサーとして活躍しつづけている木村政雄氏に聞き、1月号～3月号の3回にわたってまとめる。



フリープロデューサー
木村政雄

しかたが変わりますから、自分の手で仕事を動かす、その成果が自分に返ってくる30代は、一番おもしろい時期ともいえます。いまの自分の地位を「守り」に入ったり、のし上がるために下をつぶしにかかるより、自分の力を大いに試し、「攻め」の姿勢で30代を過ごすべきでしょう。

「守・破・離」と ステップを踏んで

世阿弥がその道を極めるための成長段階を示した言葉で「守・破・離」(しゅはり)という考えがあります。まず「守」とは、教えられたことを守り、指導者の行動や価値観を見習って自分のものにし、その範囲内でがんばることです。次の「破」とは、独自の工夫をするなど、教えから抜けだしてみることで。最後の「離」とは、指導者のもとを離れ、型にとらわれずに、学んだ内容を自分で発展させること。仕事でいえば、「守」が20代、「破」が30代、「離」が40代といえるでしょう。

30代では、まず教えられたことから一歩出て仕事を眺め、いままでのやり方が本当に最適なのかを考えてみましょう。独自のプランがあれば上司にかけあってどんどん実行してみる。そしてうまくいった方法をさらに発展させていけば、型を超えるオリジナリティが

40代

のことを語るために、まずは私のこれまでの仕事全体を振りかえってみていきたいと思います。

大学を卒業して吉本興業に入った当時、お笑いというのは世間的な評価が低くマインナーな世界でした。20代はそれを何とかメジャーにしたいとがんばった時代でした。その後、32歳のころ、それまで担当していた「やすし・きよし」のマネジャーを交代して、新しくつくられた東京連絡事務所に赴任することになり、30代は東京の足場を固めることに尽力しました。そして40代になると大阪に。自分がタレントを売る時代は終わり、それを部下にまかせて、今度は吉本興業という会社を活性化させ、会社の名前を売ろうと意識して仕事をしました。51歳のときに常務取締役に就任しましたが、いわばやるべきことをすべてやった感もあり、56歳で会社を辞めて「木村政雄の事務所」を立ち上げました。いまは、講演や執筆活動、エグゼクティブ・フリーター、人間力養成講座「有名塾」、50代のためのフリーマガジン「51(ファイブエール)」の発行など、吉本興業にいたときにはできなかったいろいろな仕事をしています。あえて肩書を自分につけていません。「エグゼクティブ・フリーター」と自

求められる次の「離」の段階に進みやすくなります。忙しい30代は、目の前のことで精一杯になりがちですが、次のステップに進むための準備を怠りなくしておきましょう。

自分のポジションを確認する

先頭に立って力を試し、先のステップアップを考えて準備する、と前進することについて述べましたが、前進のために必要なのは自分の「ポジション」を確認することです。働きはじめて約一〇年、仕事も覚え、まかされることも増え、役職にも就きはじめるころですから、その先は迷っている余裕がなくなります。

30代ともなれば自分の将来のビジョンというものがおぼろげにもあるはずですが、それをさらに進めて、家族のことや自分が何のために働いているのかをよく考えたうえで、仕事だけでなく人生全体の目標設定として、このあたりでしっかり固めておきましょう。

そして、その目標に向けて、自分がいまどの段階に位置しているか、何か欠けているものやズレがないかということを確認します。もし軌道修正や目標自体の変更が必要でも、早め確認しておけば間にあいます。こうした人生の行程といまの立ち位置という視点は、30代以降、節目ごとに意識しておくべきことです。

とはいえ、30代のうちはまだ人生は、いわ

称していますが、「仕事は木村政雄です」と言いたいんです。

先頭に立って仕事をする30代

40代の過ごし方の前に、その前哨戦である30代について少し考えてみましょう。

私は30代の初めに東京連絡事務所をつくることになって、社内では「飛ばされるんだ」と言われ、「やすし・きよし」が有名になって「これからというときにどうして」と自分でも思いました。ですが、マネジャーとしては、「二つのコンビを売っただけでは値打ちがない、もっと何かのヒットや結果を出さなくてはいけない」と感じ、また、「会社から試されている」と考えなおし、赴任をチャンスだと思ふことにしました。一から自分でルールをつくって仕事ができる新しい天地ですし、自分を試すにはもってこいでした。そう思っただけで、漫才ブームが起こったこと、もあって、東京の仕事がうまく回るようになり、30代の後半は得意の絶頂でした。

30代のサラリーマンは、上司に「使われてきた」20代と違って、力を試される時期です。先頭に立って風を受けながら仕事をしなくてはならない機会が増えてきます。だから当然リスクがあるけれど、そのぶん成功の喜びは大きく得られます。40代になるとまた仕事の

ばオープンコースです。いまいる会社でそのまま行くのか、転職するか、独立という選択肢もあります。いずれにしろ、30代はその選択肢の見極めどきでしょう。40代になると転職はむずかしくなります。同期やライバルとの差をよく見て、自分の組織と職種の展望を確認して、柔軟な思考でコースを選びましょう。そうしてコースを決め、節目ごとに自分のポジションを確認していれば、ただやみくもに走るよりずっと目標を達成しやすくなるはずですよ。

たとえば、いつまでも「いい大学を出た」などと過去のことを自慢にしているようでは、その後、伸びません。30代から先が勝負なのです。

次号では、40代の仕事のしかたやセルフコントロールの大切さなどについて述べたいと思います。

きむら まさお
http://www.km-jimusho.com
1946年京都市生まれ。69年同志社大学卒業後、吉本興業(株)入社。横山やすし・西川きよしのマネジャーを8年間務めたのち、東京事務所をはじめとする全国展開を推進。2002年に退職し、フリープロデューサーとして



事務所を設立。著書に『35歳革命』『50歳力不安をワクワクに変える知恵』など。